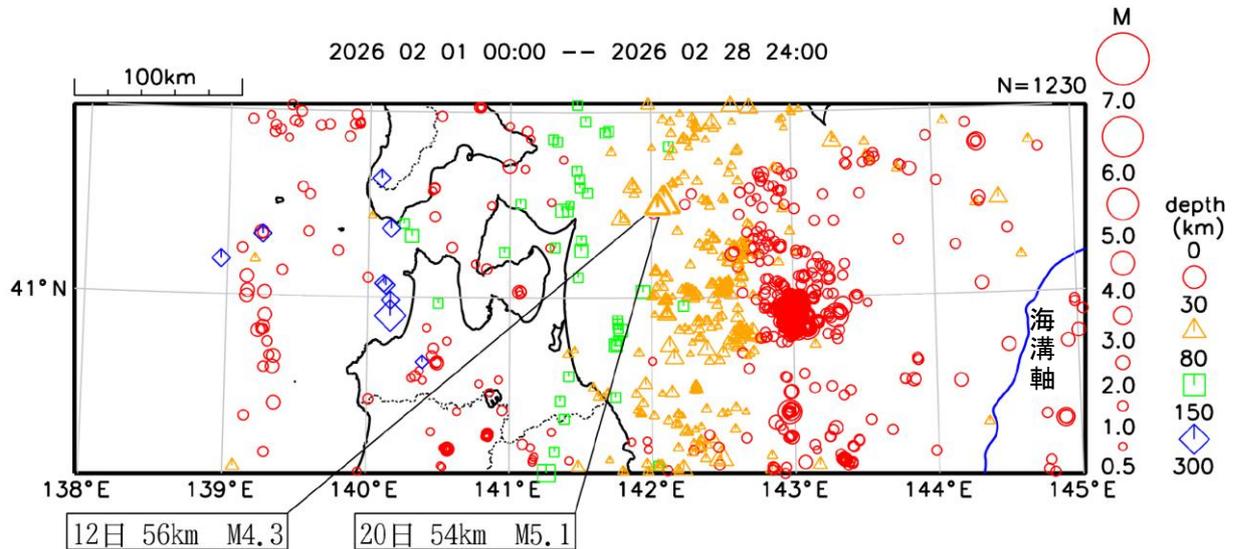


青森県月間地震概況

2026年2月

青森地方気象台

震央分布図



震央：震源（地下の岩盤破壊が最初に始まった点）の真上に向かって地表に投影した点
M（マグニチュード）：地震の規模
吹き出しをつけた地震は概況で取り上げた地震である

【2月の地震概況】

今期間、青森県内で震度1以上を観測した地震は16回（1月：22回）であった。このうち、青森県内で震度3以上を観測した地震は2回（1月：4回）であった。

2025年12月8日に青森県東方沖の深さ54kmで発生したM7.5の地震（八戸市で震度6強）の震源周辺では、引き続き地震活動が活発となっている。12日02時28分に青森県東方沖の深さ56kmでM4.3の地震（東通村で震度3）が、20日23時16分にほぼ同じ場所の深さ54kmでM5.1の地震（階上町及び東通村で震度3）が発生した。これらの地震は太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。2月1日から28日までに震度1以上を観測する地震が8回（震度3：2回、震度2：2回、震度1：4回）発生した。

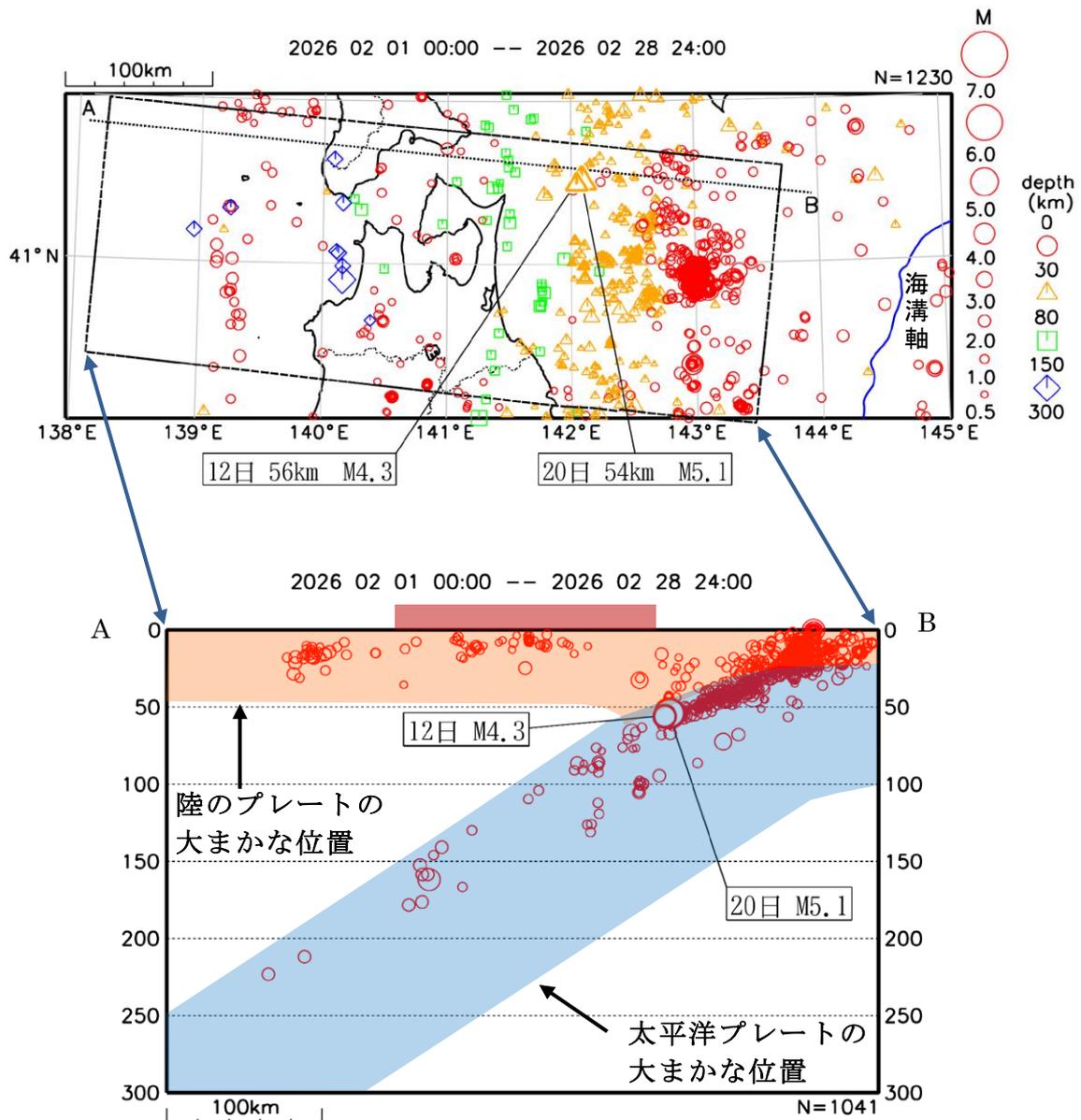
震度分布：

(12日02時28分 M4.3) <https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/#20260212022825>

(20日23時16分 M5.1) <https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/#20260220231630>

各地の震度は「青森県で震度1以上を観測した地震の表」を参照。なお、震源要素等は、再調査により変更することがある。

断面図（震央分布図内の破線領域内のA点からB点の断面における震源の深さ）



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域（概ね陸地から200km以遠）ほど、震源の深さに関する精度は良くない。なお、沖合の地震の震源は、実際はより浅いところのものが多いと考えられる。

青森県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2026年2月1日～2026年2月28日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2026年02月01日18時38分	青森県東方沖	40° 40.4' N	142° 09.5' E	54km	M3.6
青森県	震度 1	：八戸市湊町 八戸市内丸* 階上町道仏*			
2026年02月07日15時17分	青森県東方沖	40° 54.5' N	142° 06.4' E	56km	M3.7
青森県	震度 1	：八戸市湊町 八戸市内丸* 八戸市南郷* 野辺地町野辺地* 五戸町古館 階上町道仏*			
2026年02月08日14時30分	青森県東方沖	40° 43.1' N	142° 23.2' E	72km	M3.6
青森県	震度 1	：八戸市湊町			
2026年02月11日03時52分	関東東方沖	35° 35.5' N	143° 46.6' E	50km	M5.1
青森県	震度 1	：八戸市南郷* 階上町道仏*			
2026年02月12日02時28分	青森県東方沖	41° 29.4' N	142° 02.8' E	56km	M4.3
青森県	震度 3	：東通村砂子又沢内*			
	震度 2	：平内町小湊 野辺地町田狭沢* 野辺地町野辺地* むつ市金曲 むつ市金谷*			
		むつ市大畑町中島* 東通村砂子又蒲谷地			
	震度 1	：平内町東田沢* 外ヶ浜町蟹田* 藤崎町水木* 八戸市湊町 八戸市内丸* 八戸市南郷*			
		三沢市桜町* 七戸町森ノ上* 横浜町林ノ脇* 横浜町寺下* 東北町上北南*			
		東北町塔ノ沢山* 六ヶ所村尾駁 五戸町古館 五戸町倉石中市* 青森南部町平*			
		階上町道仏* おいらせ町中下田* むつ市大畑町奥薬研 むつ市川内町* 東通村尻屋*			
		東通村白糠* 風間浦村易国間* 佐井村長後*			
2026年02月15日02時59分	陸奥湾	41° 01.9' N	141° 04.0' E	10km	M2.8
青森県	震度 1	：平内町小湊			
2026年02月15日16時19分	青森県東方沖	41° 35.9' N	141° 52.0' E	33km	M3.8
青森県	震度 2	：東通村砂子又沢内*			
	震度 1	：八戸市湊町 横浜町林ノ脇* 階上町道仏* むつ市金曲 むつ市金谷* むつ市大畑町中島*			
		むつ市川内町* 東通村砂子又蒲谷地 東通村尻屋* 東通村白糠*			
2026年02月16日13時59分	岩手県沖	40° 07.9' N	142° 28.8' E	38km	M4.4
青森県	震度 1	：平内町小湊 八戸市湊町 八戸市内丸* 八戸市南郷* 野辺地町野辺地* 七戸町森ノ上*			
		三戸町在府小路町* 五戸町古館 青森南部町苦米地* 青森南部町平* 階上町道仏*			
		おいらせ町中下田*			
2026年02月17日02時52分	青森県東方沖	40° 48.1' N	142° 37.7' E	43km	M4.0
青森県	震度 1	：八戸市南郷* 五戸町古館 青森南部町苦米地* 青森南部町平*			
2026年02月19日06時13分	青森県津軽南部	40° 38.8' N	140° 29.3' E	11km	M2.7
青森県	震度 1	：青森市浪岡* 板柳町板柳* 弘前市城東中央* 藤崎町西豊田* 藤崎町水木*			
		田舎館村田舎館* 平川市猿賀* 平川市柏木町*			
2026年02月20日23時16分	青森県東方沖	41° 30.5' N	142° 05.2' E	54km	M5.1
青森県	震度 3	：階上町道仏* 東通村砂子又沢内*			
	震度 2	：平内町小湊 八戸市湊町 八戸市内丸* 八戸市南郷* 野辺地町田狭沢* 野辺地町野辺地*			
		六ヶ所村尾駁 五戸町古館 青森南部町苦米地* 青森南部町平* むつ市金曲 むつ市金谷*			
		むつ市大畑町中島* 東通村砂子又蒲谷地			
	震度 1	：青森市花園 青森市中央* 青森市浪岡* 平内町東田沢* つがる市車力町*			
		外ヶ浜町蟹田* 藤崎町水木* 八戸市島守 十和田市西二番町* 十和田市西十二番町*			
		十和田市奥瀬* 三沢市桜町* 七戸町森ノ上* 七戸町七戸* 六戸町犬落瀬*			
		横浜町林ノ脇* 横浜町寺下* 東北町上北南* 東北町塔ノ沢山* 六ヶ所村出戸			
		三戸町在府小路町* 五戸町倉石中市* 青森南部町沖田面* おいらせ町中下田*			
		おいらせ町上明堂* むつ市大畑町奥薬研 むつ市川内町* むつ市脇野沢* 東通村尻屋*			

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
	各地の震度 東通村白糠* 風間浦村易国間* 佐井村長後*				
2026年02月22日02時09分	青森県東方沖	40° 54.6' N	142° 06.6' E	55km	M3.8
青森県	震度2 : 八戸市南郷* 震度1 : 八戸市湊町 八戸市内丸* 三沢市桜町* 野辺地町野辺地* 五戸町古館 五戸町倉石中市* 青森南部町苫米地* 青森南部町平* 階上町道仏* おいらせ町中下田* 東通村白糠* 東通村砂子又沢内*				
2026年02月23日11時59分	岩手県沖	40° 22.7' N	142° 57.7' E	23km	M4.5
青森県	震度1 : 八戸市湊町 八戸市内丸* 八戸市南郷* 七戸町森ノ上* 三戸町在府小路町* 五戸町古館 青森南部町苫米地* 青森南部町平* 階上町道仏*				
2026年02月24日19時45分	岩手県内陸北部	40° 03.5' N	141° 15.5' E	90km	M3.4
青森県	震度1 : 青森南部町苫米地*				
2026年02月25日03時16分	岩手県沿岸北部	39° 33.3' N	142° 00.8' E	54km	M4.6
青森県	震度2 : 八戸市内丸* 八戸市南郷* 五戸町古館 青森南部町苫米地* 青森南部町平* 階上町道仏* 震度1 : 平内町小湊 八戸市島守 八戸市湊町 十和田市西二番町* 十和田市西十二番町* 三沢市桜町* 野辺地町野辺地* 七戸町森ノ上* 七戸町七戸* 六戸町犬落瀬* 東北町上北南* 三戸町在府小路町* 五戸町倉石中市* 田子町田子* 青森南部町沖田面* おいらせ町中下田* おいらせ町上明堂* 東通村砂子又沢内*				
2026年02月25日18時41分	青森県東方沖	41° 29.6' N	142° 02.7' E	56km	M4.2
青森県	震度2 : 階上町道仏* 東通村砂子又沢内* 震度1 : 平内町小湊 八戸市湊町 八戸市内丸* 八戸市南郷* 三沢市桜町* 野辺地町田狭沢* 野辺地町野辺地* 七戸町森ノ上* 横浜町林ノ脇* 東北町上北南* 六ヶ所村尾駁 五戸町古館 五戸町倉石中市* 青森南部町苫米地* 青森南部町平* むつ市金曲 むつ市大畑町中島* 東通村砂子又蒲谷地 東通村白糠*				

(注) 地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。

各地の震度は青森県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

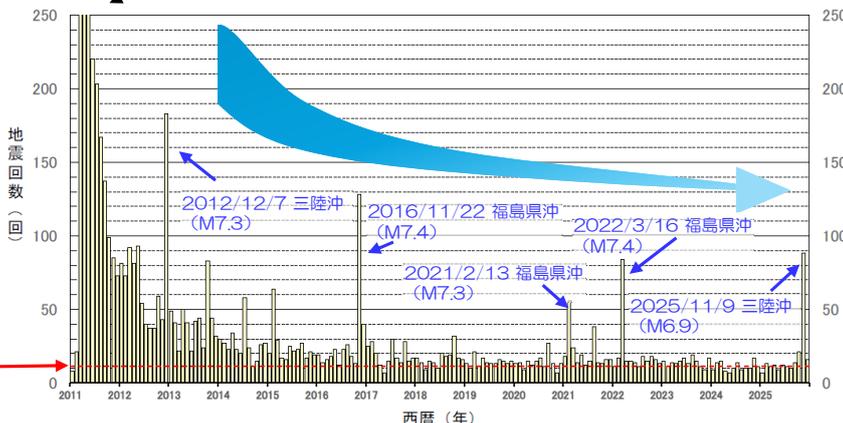


東日本大震災後15年間の地震活動

1. 余震域内の地震活動は長期的にみると地震回数が減少している

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の余震域での毎月の地震回数の推移（マグニチュード4.0以上）
 集計期間：2011年（平成23年）～2025年（令和7年）

2011年3月：3116回、4月：786回、5月：378回



(参考)
 2001年～2010年の
 M \geq 4.0の地震回数
 月平均値：11.5回
 月中央値：9回

2001年～2010年の
 M \geq 4.0の地震回数
 月平均値

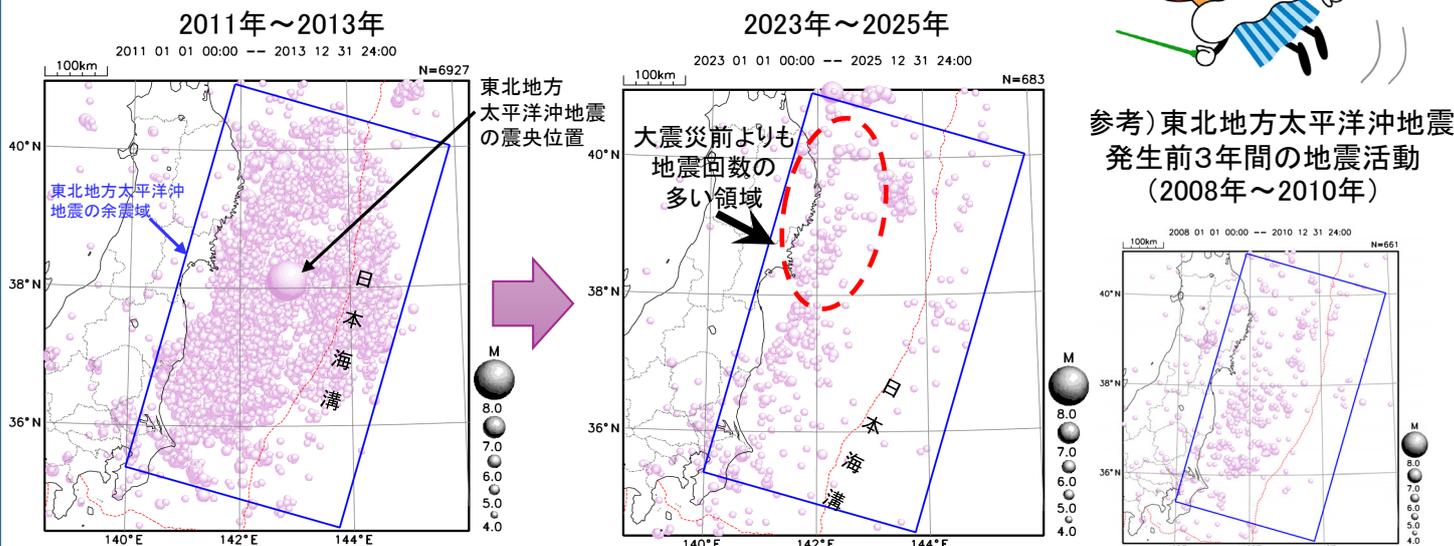
2020年3月の時点で
 大震災直後よりも
 25分の1以下にまで
 減少しているよ



大震災直後の一年間と比べると、地震回数は時々一時的な回数の増加はみられますが、長期的にみればかなり減少しました。活動が低下してきたことから、東北地方太平洋沖地震の余震なのか、従来からの通常地震活動の一環なのかどうかの判別がつきにくくなっています。このため気象庁では、東北地方太平洋沖地震の余震と考えられる、という表現は使わなくなりました(※)。 ※(参考)令和3年4月1日気象庁報道発表「東北地方太平洋沖地震の余震域で発生する規模の大きな地震の報道発表資料での表現の変更について」

2. 震災前よりも地震活動が活発な領域が現在も残っている

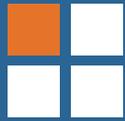
東北地方太平洋沖地震の余震域の震央分布 (M \geq 4.0以上、深さすべて)



参考)東北地方太平洋沖地震
 発生前3年間の地震活動
 (2008年～2010年)

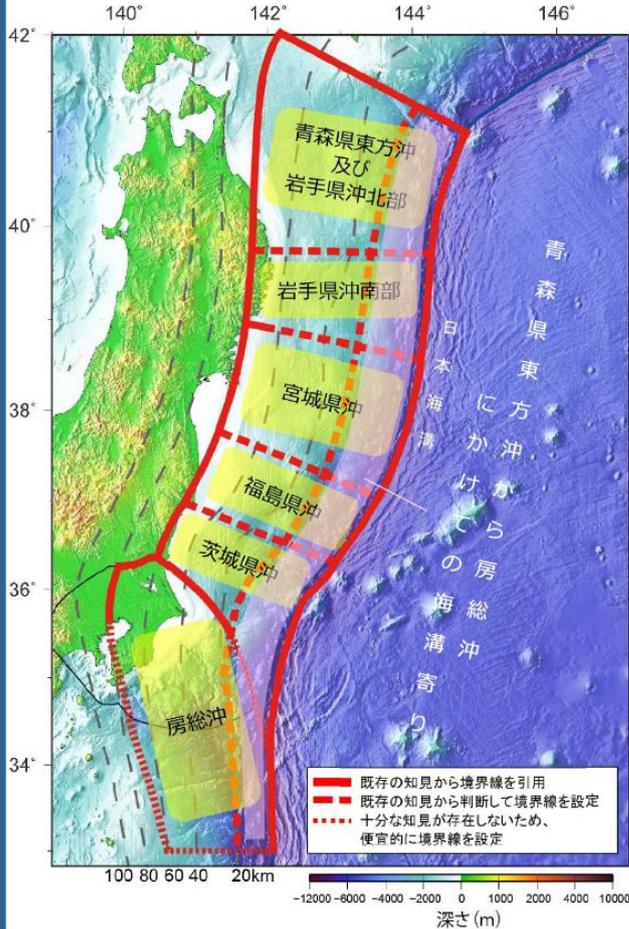
15年経過した現在でも、本震で断層のずれが大きかった領域の周辺(岩手県沖～宮城県沖の沿岸部など)で、東北地方太平洋沖地震発生前よりも地震回数の多い状態が続いています。





東北地方の将来的な地震発生予測

1. 今後30年間に青森県周辺の海域で大地震が発生する確率



プレート間地震の評価対象領域
(図は地震調査研究推進本部資料より引用)

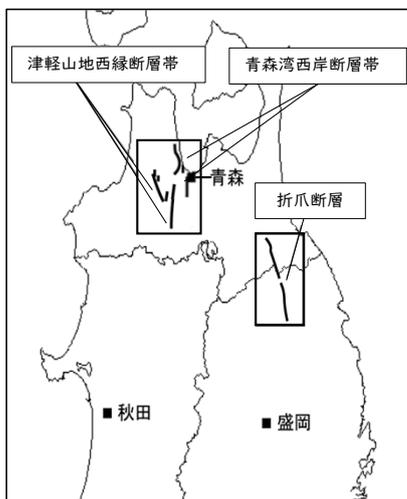
地震調査研究推進本部地震調査委員会は、主要な海溝型地震の活動間隔、次の地震の発生可能性〔場所、規模(マグニチュード)及び発生確率〕等々を評価(長期評価)し、随時公表しています。

それによると、千島海溝沿いの超巨大地震や青森県東方沖及び岩手県沖北部地震タイプの地震の長期的な地震発生確率は高い値で評価されています。「いつ起きてもおかしくない」と受け止め、「いつか」ではなく「今」への対策として、防災の備えに努めてください。

長期評価確率(30年) (算定基準日 2026年1月1日)	
千島海溝沿いの超巨大地震(17世紀型)[M8.8程度以上] 7~40%	
日本海溝沿いの超巨大地震(東北地方太平洋沖型)[M9.0程度] ほぼ0%	
青森県西方沖の地震[M7.7前後] ほぼ0%	
青森県東方沖及び岩手県沖北部	[M7.9程度] 20~40%
ひとまわり小さいプレート間地震	[M7.0~7.5程度] 90%程度以上
沈み込んだプレート内の地震[M7.0~7.5程度] 60~70%	

地震調査研究推進本部地震調査委員会による千島海溝沿い・日本海溝沿い・日本海東縁部の地震の長期評価(一部抜粋)

2. 青森県内の活断層の長期評価



青森県及び周辺の活断層分布 (図は地震調査研究推進本部資料より引用、加筆)

過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられている断層を「活断層」と言います。活断層は活動の繰り返しの間隔が海溝型地震よりも非常に長いため、計算上地震発生確率は低くなりますが、他の自然災害と比べて必ずしも無視できるものではなく、確率が低い値であっても「高い」と評価されることがあります。

活断層の名称	予想される地震の規模 マグニチュード・M	地震発生可能性 (相対的ランク評価※)	
青森湾西岸断層帯	M7.3程度	Aランク(やや高い)	
津軽山地西縁断層帯	北部	M6.8-7.3程度	Xランク
	南部	M7.1-7.3程度	
折爪断層	最大M7.6程度	Xランク	

※活断層における地震発生確率(今後30年以内)のランクについて
Sランク: 3%以上 Aランク: 0.1~3%未満
Zランク: 0.1%未満 Xランク: 不明

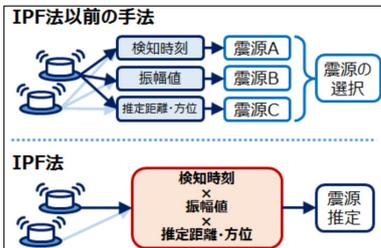
不明(すぐに地震が起きることが否定できない)を「Xランク」と表記しています。



東日本大震災後の気象庁の 地震津波に関する主な取り組み（1）

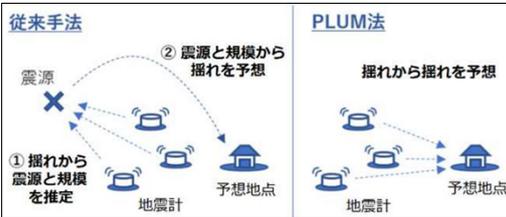
1. 緊急地震速報

震源決定手法の改善(IPF法)
※Integrated Particle Filter法



震源・マグニチュードの推定
精度向上を図る

巨大地震への対応(PLUM法)
※Propagation of Local Undamped Motion 法



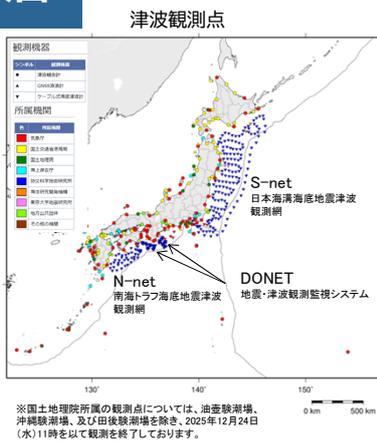
東北地方太平洋沖地震のような巨大地震の場合も、震源から遠い地域に対しても適切に警報を発表する。

気象庁は震源決定手法の改善(IPF法、平成28年)や巨大地震への対応(PLUM法、令和2年)を行い、その結果、以前よりも緊急地震速報の予測精度は向上しました。また、令和6年には震度に加え高層ビルなどで揺れが大きくなる「長周期地震動」の階級の予測も発表基準に加えました。*

※長周期地震動階級3以上を予測した場合に
長周期地震動階級3以上を予測した地域に対して発表

2. 津波警報等の改善

種類	発表される津波の高さ	数値での表現	発表基準
大津波警報	10m超	(10m < 予想される津波の最大波の高さ)	予想される津波の最大波の高さが高いところで3mを超える場合
津波警報	3m	(3m < 予想される津波の最大波の高さ ≤ 10m)	予想される津波の最大波の高さが高いところで1mを超え3m以下の場合
津波注意報	1m	(0.2m ≤ 予想される津波の最大波の高さ ≤ 3m)	予想される津波の最大波の高さが高いところで1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合

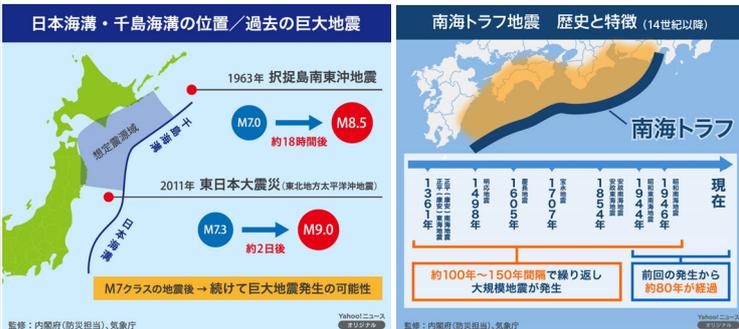


東北地方太平洋沖地震時に発表した津波警報の課題に対して、津波警報・注意報の発表方法や表現を変更しました。(平成25年3月7日)

国立研究開発法人防災科学技術研究所の地震津波観測網(S-net、DONET、N-net)のデータを活用し、津波警報等の更新及び津波情報の発表の迅速化や精度向上が図られています。

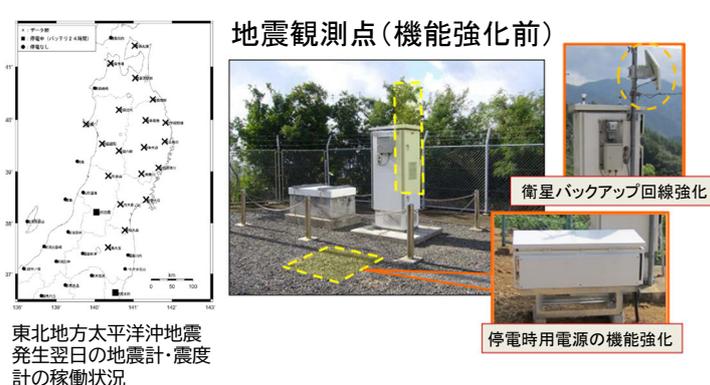
S-net、DONETの活用は平成28年7月28日から、N-netの活用は令和6年11月21日から開始

3. 巨大地震関連

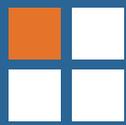


東日本大震災の教訓を背景として、日本周辺で発生が想定される超巨大地震について、現在「北海道・三陸沖後発地震注意情報」、「南海トラフ地震に関連する情報(南海トラフ地震臨時情報、南海トラフ地震関連解説情報)」という2つの情報が運用されています。

4. 観測点の通信機能・電源機能の強化

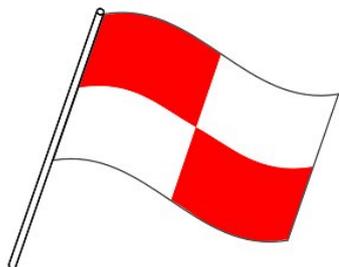


東日本大震災では広域で停電や通信回線の途絶がありました。そのため、各観測点でバックアップ回線の確保や、停電後3日間は運用できるよう電源機能を強化しました。



東日本大震災後の気象庁の 地震津波に関する主な取り組み（2）

5. 津波フラッグ



津波フラッグ



津波フラッグ掲出の例

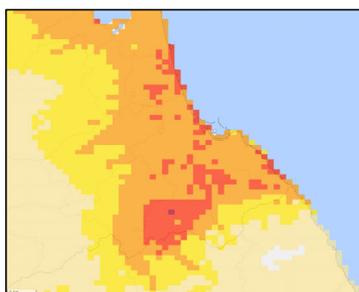
津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝達されます。

令和2年6月から海水浴場等で「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われています。

「津波フラッグ」を用いることで、聴覚に障がいをお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。

6. 推計震度分布図の高度化

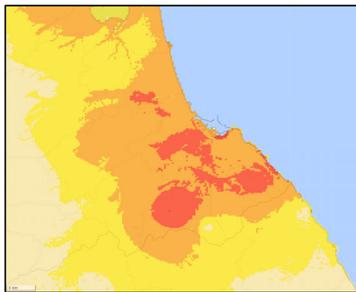
1kmメッシュ（従来の手法）



新しい推計震度分布図

- 250m地盤データ
従来の1kmから変更
- 震度データ(観測値)
従来の手法でも使用
- 緊急地震速報の震度予測技術
技術開発を行い、新たに活用

250mメッシュ（新しい手法）

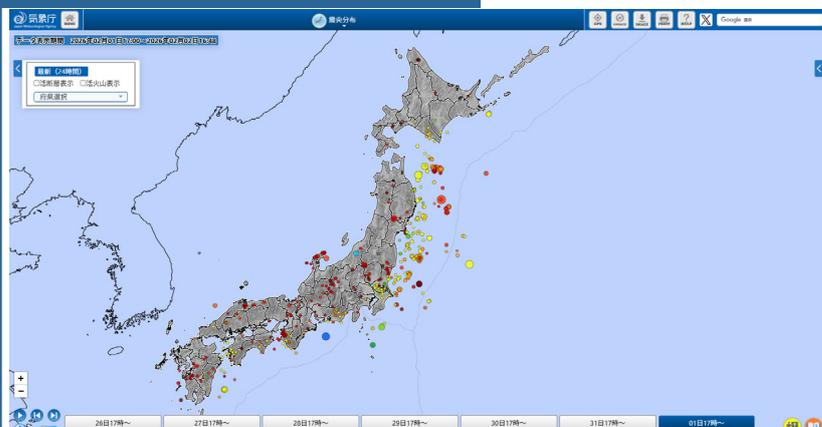


推計震度分布図は震度観測点のない地域を含む震度分布を面的に推計した図で、適切な救援ルート・避難場所の選定や、応急対応すべき優先箇所の判別などに活用いただいています。

令和5年2月から、高解像度化及び震度の推計手法の改善を行った図の提供をしています。

推計震度分布図の作成にあたっては、2025年(令和7年)12月8日23時15分頃に発生した青森県東方沖の地震(M7.5、最大震度6強)の震度データを使用した。

7. 自動処理震源の導入



平成28年4月1日からは震度1に満たないような規模の小さな地震については自動処理によって決定された震源を活用しています。

これにより、大量の震源を処理できるようになるとともに、大きな地震が発生した際にも、より最近までの活動状況を地震解説資料等に反映できるようになり、気象庁HPでもより直近の地震活動状況が閲覧できるようになりました。

気象庁ホームページ 防災情報「震央分布」のページ
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=hypo>

